

From Women to Women

今号の話題

- インタビュー (渡部克子さん)
- オレは長女だ!?
- ある男・独白
- コーヒーブレイク

1991.12.10

インクダブユ

今回は、今春長与町議会議員に社会党推薦が初当選された W・Kさんの登場です。専業主婦から議員になられた渡部さんは、話の内容はもちろんのこと、女優の岸田今日子さんにも負けぬ程の語り口で、とても魅力的な先輩です。テープのまま、みなさんにお聞かせできないのが残念です。

〈議員になつてよかつたと思つてるの〉

① 町議会は、議員二十四名のうち、女性が二人です。もう一人の方は二期目で、前々の長与町婦人団体連絡協議会会長だった方で、私は前長与町婦人団体連絡協議会会長だったんです。女性議員の割合は長崎市と同じくらいかなと思います。長崎市の女性市議の場合は、女性のために女性のことを言う議員ばかりのような気がしますけど、長与の場合は、もう一人の女性議員の方は同じ席に出て物を言いますとお互い反対の意見になりま

すね。「女には女の天分がある。男には男の天分がある。」だから「女はいつも男を立てなくちゃいけない。」と言われるの。だから議会ではあまり女性の問題を言つて下さらなかつたのね。そういう点では議員になつてよかつたかなと私は自分のことを思つてるんですよ。

〈議員へのきっかけ〉

② 議員になろうとはそう思わないうちになつてしまつたんですけどね。結婚してつれあいが転勤族だったから。長崎にはいないで、長い所で七年位ずっと働いていたんです。そういう時の専業主婦って何も積み重ねができないのね。しようと思えばできたんですけど、やつと落ち着いて「図書館はどこにあるの？」から始まるでしょう？ とうしていろんなことにも慣れてきた頃にまた転勤でしょう？

最初北九州で次が佐賀だった。佐賀で塾の教師の仕事がみつかつて、これから仕事ができるよと考えてものすごくうれしかったの。それが四月。下の子供は一才になつたばかりだったけど、私が

仕事に行くなら子供はみてあげると同じ社宅の奥さんがいてね、私の収入の中からその方には謝礼を渡して行つてたんです。そして七月に転職なんです。英語の教師だったんですけど、東京へ転職したら、社宅の奥さんたちでも英語がペラペラの人がたくさんいるでしょう？それならともち打ちできないし、ともそんな仕事なんかみつからないし、できないの。そして結局あきらめたんですよ。その後群馬県へ行ったら、また仕事の口があつたんですけど前の転職の時の話をしたらだめになつて、その頃は専業主婦だったの。

△勉強だけではだめなのね▽

こう言つてよくおこられるけど、専業主婦をしていたらバカになるんですよ。専業主婦つて、どんなに本を読んだり勉強したりしていても、社会に出ていろんなことをしない限りだめだと思うんですよ。私がバカになつたから他人もバカになる、と言うから他の人はおこるんですけどね。(笑)

あるサークルに行つた頃ですけどね、大学の先生の講義をうけて勉強するサークルだったんで

ですけど。ある時メンバーの中にアムネスティの会員がいて、私はハガキを書いたりチラシを配つたりするのを頼まれたの。私は個人としてするんですといつても、サークルのトップの人はそんなことをしたらダメだと言うんです。私はサークルの帰りにコーヒーでも飲みながらするんだから別に悪くないんじゃないですか？って言つたんです。その時にね、他の人たちは、そのトップの人が言うことはおかしい、とは誰も言つてくれなかつたんですよ。私は、もうこんなところの委員なんかするもんかと思つて、その後一年ぐらいでやめまじした。そういうふうにな身の安泰ばかり考へるのよ。それにいろんなことをすると、公的な機関からどう見られるかとか、つれあいの立場とかね。仕方がないといえは仕方がないけどね。何のため勉強してるんですか？て言つたのね。勉強したら、考へて、それでどうすべきか？て考へて行動しなくっちゃ何のための勉強かわからないでしよう。私は勉強するのは好きなんですけど、勉強以外は何もしないっていうのは合れないんですよ。ぜつたいにいいサークルなんですけどね。

組合活動をしている人たちは、組合関係以外には出て行かないことが多いのよね。組織をかかえていると忙しいって言うことはわかるのよね、ほんとうに。でもそれは専業主婦と同じになるのよ。その組織の中のことはわかっても、外部のことが遠くなるの。いつも同じ人たちと集まっていたら、茶展がないでしょう？ いろんな人たちが集まっているのはいいですよ。いろんな人が勝手にいろんなことを言うでしょうけど(笑)、おもしろいんですよ。いつもみんなが心がひとつで同じことというのには、うまくいくかもしれないけど、おもしろくないですよ。私はこっちにいてもあっちにいてもすぐ飛び出そうとするからヨロシクナイんですよ。(笑)どっちにこつても。こっちからも叱られ、家に戻ればつれあいからも叱られ。(笑)でもね、何にでも行ってみたいのね。

〈社会党との関わり〉

⑦私がかやっていることを社会党の方がずつと見てらして、考え方が同じだと思われたらしいのね。社会党との関わりは、母と女教師の会がきっかけ

ね。下の子が小学校五年の時に長手へ引、越してきて、母と女教師の会がいつあってるか知らなかったの。下の子は付属中学校を受けさせたんだけど、上の子が「お母さんは、子供は普通の学校へ行かせるべきだと言っていたじゃないか。どうして付属を受けさせるの」と言ったの。私は「ごめんね。まことに不純な動機で申し訳ないんだけど、長手の学校へ行ったらPTAでバレーボールをさせられるの」って言ったんです。(笑)私は体育は苦手なんです。群馬県にいた時もそうで、「バレーができる人はいですよ。でも楽しくない人もいるんです。たとえばピアノコンクールを—するといったら皆さん出られますか。どうしてもイヤという人もいらっしやるでしょう。私はそれくらいバレーはしたくないんですよ」と言っただけです。それでも理解してもらえないんですよ。私はこれもイジメのひとつだと思っんですよ。それで長手に来たでしょう。小学校のPTAでもまたバレーボールがあったんだけど、中学校でもあるって聞いて、これは絶対に子供を付属中学校へ入れようと思ったの。(笑)上の子としては、子供を

エリートコースに乗せようとしてると思つていた
んだけど、私の話を聞いて「あっ、そうか」(笑)
つて。もうろんな下の子にはそんなことは言いませ
んよ。(笑)

それで付属中に行つてたから、組合の先生方は
いらつしやらないし、母と女教師の会のことはわ
からないでいたんです。そして長手中の子供さ
んのお母さんから一緒に行つて下さらないと誘わ
れて「行つてもいいですよ」って出かけて行つた
の。その会場でお母さんたちが先生にいろいろ文
句を言うようなかんじになつて、先生も困つたよ
うにしてらつしやつたの。それで「先生方も考え
てらつしやるけど、校長先生からいろいろ圧力が
かかつて、先生方の考えどおりにはなかなかなか
ないんですよ。そこをわかつてあげて下さい。」み
たいなことを言つたの。その時そこにいらした先
生が、今私の後援会長をして下さつてるんですけ
ど、その時、長手にこういう人がいるんだつて、
と頭に残されたさうなんです。その方が社会党
関係の方だつたんです。すいぶん後で「土井たか
子と共に未来をつくる長崎の女たちの会」という

のをつくるから呼びかけ人になつてくれないかと
いう話があつたの。社会党ばかりで固めたくない
という事で他にもいろいろな人が呼びかけ人になつ
ただけど、会長はフツツの人がいい(笑)とい
うことになつてね。繰り返しますけど、私は専業
主婦でバカなんですよ(笑)。だから「なーんにも
わかつてないからできません」って言うとな
ーんにもわかつてなくて組合的な発想で物を言わ
ないのがいい」とかなんとか言われ、結局、そ
れじゃあなりませんよ」ということになつたんです。

〈議員になるのは大決心?〉

① 私はもつと飛ぶ越えられないことを持つてい
るんですよ。私はずつとプロテストタントの教会に行
つてるんですけど、洗礼を受けてないんです。

群馬にいた時「婦人の友」の友の会の人かバザ
ーをしてる所に何となく行つて、この会は何と
なく良さそうね、と思つて、よく知らないけどい
いことしてると思つて友の会にはいつたの。キリ
スト教精神にのつとつていろいろ活動をしてい
るということだつたの。でも私はキリスト教って

うのを知らない訳よね。そしてら勉強してる所があるというので行つたの。そしてら婦人の友の創始者の羽仁説子さんの著作集をみんな読んぐるんです。当番で感想を言うんですけど、みんな、「こんな面白いことが書いてありました。私もこうしたいと思えます。」ということばかり言うの。私の番がきた時に、そんなことばかり言うだけだったら意味がないって言ったのね。勉強会を聞く必要がないじゃないですかって（笑）。それでね、私は疑問を持った点や、おかしいと思う所があると言つたの。そしてらその会始まって以来だつたんですって、そんなことは（笑）。友の会にとつては羽仁説子さんは教祖みたいな方でしょう。たしかにいいことを言つてらっしゃるんだけど、みんな毎月集まつて、ただ「良かった、良かった」だけではね。そんなのは意味がないって言ったものだから、みんながびっくり仰天してね。クリスチャンの人はいいのよ。クリスト教のキの字も知らない人が、クリスト教にのつとつて……とやうているものだから「自分が知りもしないでそんなことはできない性分なんです」って言つたら、

聖書会に誘つて下さつた人がいらつしゃつたんです。そしてらその牧師がすばらしい方で、私は友の会はやめちゃつたんです（笑）。そしてその牧師さんの教会に通うようになったの。もし転勤になつてなかつたらそこで洗礼を受けてたと思うの。そして長崎に来て、またいい牧師さんに出会つただけでまたその方も転勤されたの。今の牧師さんが悪いという訳じゃないのよ。絶対に他の宗教よりプロテスタントがいいと思つてるんだけど、洗礼を受けられないの。そこを飛び越えられないの。それに比べたら、土井たか子さんの会の方が長や議員になることなんて、ぜんぜんどうもない。洗礼を受けられないことの方がずつと重い。新聞記者の人からも「それでもう一大決心がいつたむしよう」と言われたけど、うちのつれあいも「いんじゃない」と言つたし、組合のことも社会党のことも何も知らない私に社会党の人は「今のままでもいいんですよ、そのままよ」というから、今のままでもいいんだつたらいいでしょうと言つたの（笑）。町議会では、社会党という立場よりも、女性の立場でやうていくということの方が大きいわ

ね。

へっ、でも自然に……

⑥それまごは、議会で言わない限りどこ言っても取り上げてもらえないと身にしみて感じていましたからね。以前、長与町の総合審議会委員というのをしたんですけれどね、その委員になったのもなんで私が？と思っただぐらいで、ある会の席で私かパネラーとして発言していたのを聞かれた長与町の助役さんが町長に私を推薦されたということからなの。こんなふうに思いかけないところどころなことになっできてくるのね。それで、十二人位の委員の中で女性は私ひとりなの。その他はほとんどど年配の男性。あらゆる分野の人から選んでいきますということだったんですけれど、女性は私ひとりっていうのはおかしいでしょう。だから、次は女性をせめて二名に増やして下さってお願いしたのね。福祉のことについていろいろ言っただんですけれど、返事だけはすごくいいんですけれど結局はだめのね。

こんな状態だったから、土井たか子さんが議

会で言わなくちゃいけないって言われてたんですよ、だからそれに共鳴して、土井たか子さんの会の呼びかけ人にもなりました。絶対に政策決定の場に出ていかないと限り、いろいろごちゃごちゃ言っただけで取り上げてもらえないと思っただね。そしてみなで政策決定の場に誰かを出そうと言ったの。その時まわりの人から「あなたかいけないのよ」と言われたら、ね。女の人をお勤めをしている人だったら仕事を辞めてまごははふつづでさないとすよね。そして子供さんが小さくてもむずかしいし、生計を支えている人はできないし、もししたら四十代後半か五十代の女性で仕事を持つてない人となればね。専業主婦だったら、落選しても食べていけますから。こんなふうに、とっても自然に、気がついたら議員になつてたってかんじなの。

へ……と言ったじゃありませんか！

⑦議員になつてよかつたことは、土井たか子さんが言われたように、何よりも政策決定の場に参加できるということね。議会で発言すれば、長与町

の場合、役場の課長以上が聞いていたし、他の議員も聞いていたし、傍聴に来た人も聞いていたし。だから町長がその場限りの答弁をしたとしても、私の発言を全く無視することはできない。必ず記録に残るし、その時実現しなくても、次の機会に「この前、考えると言ったじゃありませんか！」と言えるわけでしょう。ああ、議員になつてよかつたなと思いますよ。

議会での最初の一般質問は図書館に関することだつたそうで、今後は福祉のことをやりたいとのこと。紙面にはご紹介できなかったおつれあいや議会のことなど、ここだけの話まっというのをもたくさんあって、インタビューということを忘れて聞き惚れるほどでした。

テープを貸し出し

ます。ご希望の方は編集委まで。

オレは長女だ!?

H・H

私は三人姉妹の長女。両親、特に父親は、男の後継がいなかったため、長女である私に一家の大黒柱になることを期待した。小学校高学年の頃には私自身もはっきりに自覚していた。父の口ぐせは、「かまどの灰までおまえの物だからな」。夫婦二人で零細商売、食生活で財産らしい物もないのに不思議な言葉ではある。私は「かまどの灰だけは私の物なのか。へどもせめて借金だけは残さないでほしいな」と理解していた。奨学金とアルバイトでの学生生活中に、「問屋に今月支払う金がないので送金してくれ」との手紙が届いた時も大してびくくりしなかった。その後請われるままに時には気をきかせて、妹達の学費不足分（やはり奨学金とアルバイト生活）家の改修費・妹の結婚費用の一部・商売用の車等のためと貯金から出して回った。親類とのいざこざ等の処理にも頭を下げて回った。なにしろ気分はほとんど「長男」責任の重さをずっしりと感じながらも、期待に添えているという自己満足。しかし、まだ問題はあった。

父が描いていたのは、長女に婿を取って同居することだった。私が県外に就職してもその夢は捨てずに待っていた。出来ればそうしてやりたい気持はあったが、結局私自身を優先した。父の期待を裏切るのだと覚悟して、二十九歳の時結婚することにした。と報告した。父はあわてて相手に会いに行った。その時、彼が父に「将来の生活設計は？」と聞かれて「一生涯命働いていきます」と答えたと聞いて、一時は結婚はやめようかと思つた。「父の質問の意図は、自分達の老後の世話をどうするかなのだから。因に彼は長男、又仕事との関係で私の親の家同居は無理。父も絶対に許さんと大反対。しかし彼が「僕は親とは結婚しない。親に対してできる事はしてやればいい、出来ないことは出来ないそれでいいじゃないか」と言ってくれたので親離れする決心がついた。いざとなれば両方の親と同居もありうると二人で話し合つて、私自身の為の生活が始まった。その中で父が経済的にも精神的にも子供に頼ってしまうのは、期待に込えようとする子供がいるからで、父だけの責任ではないと気付かされた。

私の結婚で状況は変わった。娘三人とも家を出ていて、家や両親のことは三人で相談するようになったが、三人の意見を調整して責任もって取りしきる役は私だと思つてきた。意見の違ひも時にはあったが、大した問題にはならなかつたと、私自身は思つていた。

ところが廃車の話をきっかけに様子が変わってきた。父は今八十一歳、昨年商売をやめた時、商売に使つていた車を廃車して運転をやめたら、と話を始めた。一時は父もやめようかと言つていたがやはり不便だし、趣味の釣りをするためにもどうもしても必要だ、車族が切れるまであと一年半位乗りたいたいと言ひ出した。長女と三女は絶対反対、次女はできればやめてほしいけど……で合意できなかった。私は強制的に廃車すると迫り、父は黙りこんだ。父は次女に手紙で訴えた。妹(次女)は言つた——姉ちゃんは何と云う。弱い立場の者は強く言われると自分の言ひたいことも言えなくなる。やりたいことを止める権利は誰にもない。(私)釣りをするなどは言つてない。車を維持する費用、もし事故でも起こしたらどうするの？私

には後始末をしてやる力はない。(妹)事故は必ず起こるとは限らない。もし起こしても子供が責任を負う義務はないはず。(私)法律的にはそうかもしれないけど、そこまで割り切れない。今の父にとって車はぜいたく品だ。——そして、強引に結論を出した。自分のやりたいことをするなら生活も自分の範囲でやること。今まで三人で分担してきた筈、正月、月々の援助はやめる。(年金と貯金であと十年位は大丈夫とわかっている。)

長女の権限をふるえたのはここまで。

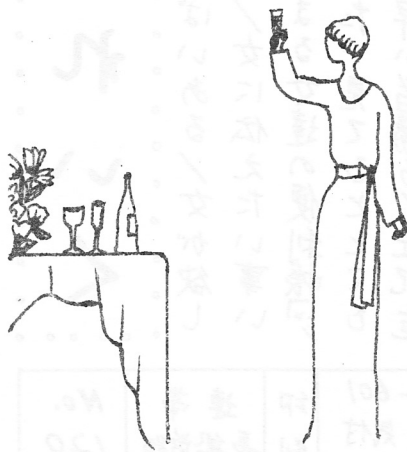
しばらくして妹から電話。「話し合って決めたことは自分の気持ちに合わない。縛られずに自由にしたい。L過去のことにしても批判統出。そして、とどめを刺された。」「両親は今自分を頼りにして何でも相談してくれる。姉ちゃんの方はどう？」

私の最後のあかき、「長女として全責任をもつ立場にたてば厳しいことも言わざるを得なかったんだよ。最終的に私が引き取って生活しようと思えば親に我慢してもらおうこともわかっただけなら、そんな気持ちわかるか？」これも軽くないな

された。「長男、長女に生まれても性格がきついとは限らない。全部自分のせいじゃないの？ 両親は生んで育ててくれた人なのに批判するなんて全てもありのままに受け入れて尊重してやらなければぬ。L私は力尽きてしまった。ガク然とした。「長女Lと言われても、たかだか数年早く生まれただけ。大人になれば皆同じ。なのに長女がなぜ責任もって取り仕切らなければならぬと思ってきたのか？ 自分こそ「長女役Lにふさわしいと思う人がやればいいじゃないか。」

私は「長女Lをやめるぞ!!」

Bottoms up!



ある男・独白

「つまりその、私は自分をリベラルだと思っている。とは言うものの、これでももう四十代になるのだ。若い頃には性的平等なんてことは特に考えなかったこともなかった。六〇年代後半から七〇年代初等にかけてのウーマン・リブ運動はショックだった。それまでは自分が男性優位のフタであることも知らなかった。ウーマン・リブ運動に直面した時、私はそれを吟味して本質を見きわめ、自分の意見を調整した。今でも炎上するビルから被害者をつぎ出せないようなら女性が消防士になれなくたってあたり前だと思っているし、なれるように基準を下げるべきではないと信じている。けれども同じ仕事内容に対しては同じ賃金が支払われて当然と思うし、今まで女性が損な役回りを演じさせられてきたという点にも疑問の余地はない。ことセックスに関しては、、、」

(ハヤカワミステリ「犯人にされたくない」より 著者 パーネル・ホール)

億万長者のシロウト探偵の主人公、なかなかのセリフ、はてさて我々の周りの男たちは？

珈琲ぶれいく

★女ができる事いっぱいある／女が欲しいものいっぱいある／女に伝えたい事いっぱいある……で始まる女達の便利帳「ヨジョ企画」が届いた。見るととても楽しい。欲しい人、早い者勝ち／左記迄 (23・9553 ¥1957 M) ★お片付けが大テーマの私、そこで「掃除」と「後かたづけ」はみんなイヤヤッているーの特集に飛びついた。ナン ト誌名は「すてきな奥さん」！アア私 はただ「すてきな人間」を志してただけなのにイ。女と帯で婦か、あーあ(Ⅰ) ★PKO法業に反対する「在宅四八時間ハンスト」に参加することにした。でも そのうち一日は仕事。大丈夫かなあ。少し心配。日曜日は寝てほしいけど。(K) ★またビデオパーティーをひらきます。オススメのビデオをお知らせ下さい!!

発行所	長崎・女の会 「女の会通信」編集委員会	事務局	長崎市滑石1丁目4-1-601 栗山洋子 気付 TEL 0958-56-7595	印刷	連帯 長船務組	No.	120
-----	------------------------	-----	--	----	------------	-----	-----